

## 編集後記

12号も充実した内容になりました。

巻頭論文は溝上広樹の実践です。溝上は、高校教員として熊本の教育を牽引しています。溝上実践の特徴は「良いなと思ったこと」は何でも取り入れていく柔軟性にあります。今回の論文でも、看図アプローチにKP法を組み合わせた実践を報告してくれています。溝上論文は、看図アプローチをいろいろなものと組み合わせることにより、さらに可能性が広がっていくことを示しています。

織田千賀子・加藤睦美論文でも、看図アプローチの新しい可能性が展開されています。「VRクリティカル看図アプローチ」がついに論文化されました。学会発表などで「VRクリティカル看図アプローチ」の一端は紹介されていましたが、今号の論文ではじめて、その全貌を知ることができるようになりました。時代の要求にも応え得る重要な実践・研究になっています。看護教育領域での実践報告ですが、他の領域での活用可能性も高そうです。

3番目は渡辺聡論文です。渡辺は「おかえりなさい」の人です。「看図アプローチ」は様々な研究を重ねることによって生まれてきました。鹿内が最初に取り組んだのは「創造的読み」に関する研究です。その研究をベースにして「図形記号解読の研究」→「看図作文の研究」→「看図アプローチの研究」と発展させてきました。渡辺は「看図作文の研究」が産声を上げるころ、小学校の現場にいて鹿内との共同研究を重ねてくれました。渡辺は看図アプローチの生みの親のひとりです。その後渡辺は管理職の道に入ったため、しばらく看図作文や看図アプローチ研究から離れていました。この度、校長職を離れ大学教員として活躍する機会を得ました。そして、嬉しいことに看図作文・看図アプローチ研究にまた戻って来てくれました。

全国看図アプローチ研究会にはたくさんの優れた人材が集まってきています。

12号も、これからの発展を期待させる内容になりました。ぜひご一読ください。

文責 鹿内信善

—— 全国看図アプローチ研究会研究誌 12 号 ——

発行年月日 2022年4月12日

編 集 「全国看図アプローチ研究会研究誌」編集委員

石田 ゆき

伊藤 公紀

鹿内 信善\*

山下雅佳実

渡辺 聡

(\*印は編集代表)

発 行 全国看図アプローチ研究会

kanzu-approach.com



事務局長 山下雅佳実 (中村学園大学短期大学部)

編集長・DTP 石田ゆき